

令和3年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

(定時制課程) No.1

福岡県立大川樟風高等学校

| 自己評価 | | | | | 学校関係者評価 | |
|---|---|---|--------|----------|--|-----------------|
| 学校運営計画(4月) | | | | 評価(総合) | | |
| 学校運営方針 | 大川市内唯一の高等学校として、「志学・創造・貢献」の校訓のもと、何事にも全力で取り組み、地域を支える有能な人材を育成することにより、地域に根ざし、地域を愛し、地域に愛される学校づくりを目指す。また、「十人十色の未来と笑顔」のコンセプトのもと、樟風生としての誇りと自信を持ち、生涯にわたって自己実現を目指す生徒を育てる。 | | | | 自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である | |
| 昨年度の成果と課題 | 年度重点目標 | 具体的目標 | | | | |
| 【成果】 ・一人ひとりの生徒に寄り添い、家庭と連携を図りながら手厚い指導を行うことで、コロナ禍の中においても、落ち着いた教育活動を行うことができた。 【課題】 ・多様な背景を持ち、課題を抱える生徒の学びを保障するための組織的な生徒理解・相談体制をより推進する。 ・コロナ禍における就業体験等キャリア教育の充実を図り、進路保障につなげる。 ・校種間や地域との連携に向けた情報発信を行う。 | 1 キャリア教育の更なる充実 (進路の手引きの有効活用、進路意識の涵養と着実な進路実績) | <input type="checkbox"/> 段階を追ったキャリア教育の推進 <input type="checkbox"/> 進路の手引きを活用した積極的な進路指導 <input type="checkbox"/> 資格取得に向けての組織的な指導 <input type="checkbox"/> 職場訪問や就業体験等を活用した就学、就業の両立 | | | | |
| | 2 ICT教育の推進 (授業が変わる。授業が分かる。学力アップへの道！) | <input type="checkbox"/> ICT機器を活用した授業の工夫改善 <input type="checkbox"/> ICT機器に対するスキルアップ <input type="checkbox"/> 確かな学力の育成を目指し、わかる授業の工夫改善 | | | | |
| | 3 魅力ある放課後づくり (部活動と生徒会活動の活性化、資格検定取得) | <input type="checkbox"/> 学校行事への積極的な参加と生徒会活動の充実 <input type="checkbox"/> 部活動の活性化と中学校や地域との交流 <input type="checkbox"/> 部活動参加率・資格検定合格率の増加 | | | | |
| | 4 自分磨き (笑顔で挨拶、爽やかな清掃、ボランティア活動) | <input type="checkbox"/> 人間としての在り方生き方に係わる道徳性の涵養 <input type="checkbox"/> いじめや差別のない人権教育の徹底 <input type="checkbox"/> 安全に対する意識を高揚させ、校舎内外の環境整備 <input type="checkbox"/> 礼節指導による規範意識の確立 <input type="checkbox"/> 情報交換を徹底し、不登校等への組織的で適切な対応の充実 | | | | |
| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価(3月) | 次年度の主な課題 | 項目ごとの評価 | 学校関係者評価委員会からの意見 |
| 教務 | 授業規律を確立し、生徒の「学ぶ権利」「人権を通じた教育」を保障する。 | 生徒指導部・学年・授業担当者と連携し、授業を受ける態度を養い、「学ぶ権利」を保障する学習環境・雰囲気をつくる。 | | | | |
| | 理由のない遅刻・欠席・早退を減少させ、出席率の向上に努める。※出席率の達成目標を、全学年平均で90%とする。 | 学年・授業担当者と連携し、家庭との連絡を密にし、「授業に出るのは当たり前」という状況をつくる。 進路指導部と連携し、遅刻・欠席・早退の多さが就職試験での不合格につながることを周知徹底する。 | | | | |
| | 「わかる授業」や「共に学び、考える授業」等の授業改善に努め、中途退学の減少をめざす。 | 研究授業及び合評会を行い、授業の工夫・改善を行う。 情報交換会や出身中学校訪問、家庭との連絡を密にし、中途退学者3人未満の実現を目指す。 | | | | |
| | 新学習指導要領に対応した学習活動の実現に向け、調査・研究に努める。 | 令和4年度からの新学習指導要領の実施に伴って生じる、教務として対応すべき課題に取り組む。 | | | | |
| | 教育環境を整備し、教育活動の効率化に努める。 | 「統合型校務支援システム」の円滑な運用に努めるとともに、教育活動の効率化につながる教務関連の資料の提示を行う。 | | | | |
| 生徒指導 | いじめや嫌がらせのない安心な教育環境を創り、積極的な生徒指導を行う。 | 登校時の校門指導や休み時間・給食時などを利用して、積極的に挨拶や声かけを行うとともに、授業中の校内巡視に努め、生徒理解を図る。 生徒会が中心となり、「安心安全な学校、いじめのない学校」づくりに向けた話し合いを行い、生徒への啓発に取り組む。また、「いじめアンケート」「学校生活アンケート」を毎月実施し生徒の意識や動向を調査・把握する。 | | | | |
| | 生徒同士が共に学び、支え合う関係づくりに努め、授業規律を確立する。 | 教務部・学年・授業担当者と連携し、清掃や授業に取り組む態度(教室内の携帯電話の使用等は禁止)を養い、時間を守り共に学ぶ環境をつくる。 | | | | |
| | 学習環境の点検・整備を行い、生徒の安全確保に努める。 | 全日制・中学校・学校・警察・消防署等関係機関と連携・協力して情報交換及び情報収集に努めるとともに、講師招聘の講話や体験的活動、校外補導等に取り組む。 | | | | |
| | 生徒会を中心に、学校行事を充実させる。 | 生徒会・委員会活動の充実を促し、学校行事を主体的に企画・運営・評価させる。時間や場所、時期等に関して全日制との調整を確実に実施する。 | | | | |
| | 県大会・全国大会出場や心身の健康の向上を目指し、部活動の活性化を図る。 | 対面式やその他の学校行事の際に部活動紹介と加入を呼びかけ、部活動への参加を促す。また、部活動の更なる充実を図る。 | | | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価(3月) | 次年度の主な課題 | 項目ごとの評価 | 学校関係者評価委員会からの意見 |
|-------|---|---|--------|----------|---------|-----------------|
| 進路指導 | 卒業予定者全員の進路の実現を目指す。 | 進路講話やHR等を活用して、将来の進路に前向きな姿勢を持たせ、自己の適性や能力を見つめさせることにより、適正な労働観や職業観を育て、進路希望の実現100%を目指す。 総合的な学習や探究の時間に、進学や就職のための受験対策講座を設けて学力向上を目指すとともに、全学年において、1学期当初から個人面談等を実施し、進路希望の掌握と同時に、コミュニケーション能力の向上を図る。 | | | | |
| | 積極的な就労促進の取組を行う。 | ハローワークからのワークステーションやパソコンを使ったWeb検索など、より多くの求人情報を提供しながら、未就労の生徒の就労意欲を高めていくとともに、就労の生徒については卒業後の進路について考えさせる。 進路支援コーディネーターやハローワークと連携しながら、職場訪問を実施し、新しい職場の開拓を進める。 | | | | |
| | 基本的な生活習慣の確立を図る。 | 生徒指導部や各学年と連携し、社会人としての一般的な挨拶やマナーの指導に努める。 | | | | |
| | 進路関係行事のさらなる充実を図る。 | 進路学習会や本校卒業生による進路講話等を活用し、生徒の進路意識の高揚に努める。 | | | | |
| | | | | | | |
| 保健 | 安全かつ健康な学校生活を送るため、保健指導の徹底を図り、健康教室に力を入れる。 | 安全かつ健康な日常生活を送るために、保健だよりの発行等を通じて保健情報を提供し、健康や安全に対する生徒の意識の高揚を図る。 講師を招いた健康教室(食育・性教育・薬物乱用防止・がん教育)を計画・実施する。 アルコールやタバコの害について、保健指導に努める。 | | | | |
| | 食育の充実を図り、喫食率を向上させると共に、職員と生徒が協力して、調理実習を行う。 | 給食委員会を年に3回開き、給食施設の設備点検・食の安全、献立の充実に努める。 食に対して生徒の意識を高めるために給食アンケートを年2回実施して問題点を把握し、献立の工夫を考え喫食率90%以上を目指す。 食育に関する講演会を計画・実施することで食生活を見直し、食の大切さを学ばせる。 食物アレルギーを抱える生徒への配慮・指導を心がける。 | | | | |
| | 校内の安全点検に努めるとともに、校内および学校周辺の美化活動に努める。 | 校内の安全点検に努め、始業式・終業式の大掃除や月末掃除及び整理整頓に努める。 生徒会を中心に行うボランティア活動・校外の清掃活動に努める。 | | | | |
| | 健康相談の充実を図り、必要に応じてSCやSSW等の指導・助言を受ける。 | 日常の生徒の変化に注意しながら、教育相談の充実を図る。 SCやSSWと連携して生徒や保護者の相談活動および教職員の指導に努める。 | | | | |
| | いじめや差別のない学校づくりに励み、生徒一人一人を大切に特別支援教育の充実を図る。 | 日頃より職員間の会話や会議における生徒情報交換を大切にして、いじめや差別を見逃さないように努力する。 特別支援の必要な生徒に対し、個々に応じた指導の方策を全職員で考える。 | | | | |
| | 指導力向上のため、職員の自己研鑽及び研修を充実させる。 | 定時制職員研修会の充実を図る。 全・定合同の職員研修会の実施に向けて、内容、日程の調整を図る。 | | | | |
| | 生徒の学習意欲の向上を図る授業の工夫する。 | 職員会議で実施している生徒情報交換を職員研修の場と位置づけ、学習意欲の向上に向けた授業の取組に有効活用する。 授業アンケートを実施し自らの授業を振り返り、よりよい授業づくりの参考とする。 研究授業月間を設定し、研究授業を実施するとともに、その後の定時制全職員による研究協議の充実を図る。 | | | | |
| 図書 | 活字や映像、音声などすべての面から図書に親しませる。 | 「読書の日」などをきっかけにいろいろな書物を紹介する。 | | | | |
| | 自分の考えや思いを言葉や文字で表現できるようにする。 | 各分掌や教科、HR担任と連携し、芸術教室、川柳教室での創作活動や生活体験発表会等を通して、作文力や表現力を身につけさせる。 | | | | |
| | たくさんの図書に触れることで、豊かな心情を育む。 | 希望購入図書のアンケート等を通して生徒の読みたい本を把握し、先生方の推薦図書をもとに購入図書を決定する。 | | | | |
| 情報化推進 | 情報機器を活用する環境整備を行う。 | 新規導入された定時制用タブレットの積極的な活用を促す。 | | | | |
| | 「樟風教室パソコン講座」において地域の方にPR活動を行う。 | 「樟風教室パソコン講座」は全職員・生徒で開講し、地域住民の方に学校のPR活動を行う。また、内容は文書作成ソフト・表計算ソフトを主に行う。 | | | | |
| | 定時制ウェブページを通し、学校行事や生徒の活動状況等、地域の方にPR活動を行う。 | 全日担当職員と協力し、ウェブページの作成・更新を定期的に行っていく。 | | | | |
| | ICT機器の活用促進を行う。 | 電子黒板やパソコン室の活用を全職員に呼びかけ、広げていく。 | | | | |

(定時制課程) No.3

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価(3月) | | | 次年度の主な課題 | 項目ごとの評価 | 学校関係者評価委員会からの意見 |
|---------|--|--|--------|--|--|----------|---------|-----------------|
| 人権・同和教育 | 人権を尊重することが日常生活において定着・習慣化される状態をつくることで、「安心・安全」な学習環境をつくる。 | 挨拶や声掛けなどを通して、教師と生徒のコミュニケーションづくりを進め、生徒自身が平等に接してもらっている安心感を持てるよう、呼名の工夫などを心がける。 | | | | | | |
| | いじめアンケート並びに学校生活アンケートの実施によるいじめの未然防止に努める。 | 「いじめアンケート」や「学校生活アンケート」で生徒の実態把握に努め、特設授業では、生徒が積極的に参加できるように工夫する。また、気になる生徒の情報を早く全職員で共有し、いじめや差別のない学校をつくる。 | | | | | | |
| | 人権教育教材集「あおぞら」・「あおぞら2」・「かがやき」の活用を促進する。 | 年3回、教材を活用した人権教育特設授業を実施する。 | | | | | | |
| 1年 | 基本的な生活習慣の定着と出席率の向上による全員の進級を目指す。 | 家庭や出身中学との連絡を密に行い、情報を共有することで遅刻・欠席等が極力減るような指導につなげる。 | | | | | | |
| | 「なぜ学ぶのか、学ばなければならないのか、なぜ定時制に来たのか」を考えさせる | 個人面談やHR等を活用して生徒の個性をとらえ、それぞれが定時制で学ぶ意義を考えさせる。また、授業担当者と連携して、社会に出る上で必要な基礎学力の定着・充実を目指す。 | | | | | | |
| | キャリア教育を充実させ、卒業後の進路について意識の高揚を図る。 | 将来の生活設計を考えさせるために、労働条件や社会保障制度、賃金等に関する具体的な数値を示しながら指導する。 | | | | | | |
| | 生徒の就業を促進する。 | 進路指導部と連携し、学校生活との両立が可能な求人紹介を行う。 | | | | | | |
| 2年 | 全員の進級を目指す。(進級率100%) | 定期的な個人面談で生徒の変化について、早期発見、早期対応を心掛けるとともに、家庭との連携を密にし、欠席、遅刻、早退をなくす。 | | | | | | |
| | 個の尊重とクラスの和を重んじる学級経営を行う。 | HRや人権教育特設授業を活用して、相互理解について考えさせる授業を重視し、生徒に個の尊重と集団の役割や規範の意味について考えさせる。 | | | | | | |
| | 進路についての目標を明確にし、進級や卒業に向けての意識の高揚を図る。 | 卒業後の進路について早期に目標を決定させる。進路実現に向けて、基礎学力の定着について主体的に取り組ませる。 | | | | | | |
| | アルバイトや資格試験、高卒認定試験等に積極的に取り組ませる。 | アルバイトや資格試験、高卒認定試験等を推奨し、進路実現に向けたコミュニケーション能力の向上や自己肯定感の育成を図ることで、挑戦率80%を達成する。 | | | | | | |
| | 基本的な生活習慣を確立し、遅刻や欠席を減少させる。 | 正しい生活リズムの定着について考えさせ、日常のルーティンを一定にするための手段について学習させる。 | | | | | | |
| 3年 | 基本的な生活習慣を確立し、遅刻や欠席を減少させ、出席率90%、全員進級を目指す。 | 行事予定等を早い段階で提示し、自らを律することができるように意識付けを行うと共に、家庭との連携を密にして、欠席・遅刻・早退を減らし、進級を可能にする。 | | | | | | |
| | 個の尊重とクラスの和を重んじる学級経営を行う。 | HRや担任の授業を活用して、生徒ひとりひとりに居場所のあるクラスづくりを意識し、生徒自身に個の尊重と集団の役割について考えさせる。 | | | | | | |
| | 進路についての目標を明確にし、進級や卒業に向けての意識の高揚を図る。 | 卒業後の進路について早期に目標を決定させ、進路実現に向けて、基礎学力の定着について主体的に取り組ませる。 | | | | | | |
| | アルバイトを奨励し、就業体験またはアルバイトの継続を目指す。 | 新聞広告やハローワーク等のアルバイト情報を収集し、生徒に提示する。キャリア教育の充実、HR等で就業についての指導・助言を継続する。 | | | | | | |
| 4年 | 基本的な生活習慣を確立し、遅刻や欠席を減少させ、出席率90%、全員進級を目指す。 | 家庭との連絡を密にして、生徒をしっかりバックアップし、本人に対しても、行事予定の確認を早めにさせ、欠席・遅刻・早退を減らす。 | | | | | | |
| | 個の尊重とクラスの和を重んじる学級経営を行う。 | 生徒一人ひとりに居場所のあるクラスづくりを心がけ、生徒に個の尊重と集団での役割について考えさせる。 | | | | | | |
| | アルバイトを1年間通して継続させ、学業との両立を達成させる。 | 勤労意識を高めるため、アルバイトについては継続させるが、専門学校の受験や就職試験などで、職場に迷惑がかからないようにさせる。 | | | | | | |
| | 生徒の進路に応じた個別の指導に努める。 | それぞれの生徒に応じた進路指導を行うとともに、進学する生徒を含めて、就職試験レベルで求められる知識・教養について、HR等を利用して指導を行う。 | | | | | | |

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

評価項目以外のものに関する意見